

これがオススメ! 読み聞かせ本

低学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんのお本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

歯は食べることを支える大切な器官です。今回は、歯の役割と体のことから虫歯を考える科学絵本『はははのはなし』を紹介します。

著者の加古さんは、『だるまちゃん』シリーズや『からのすのパンやさん』で人気の作家で、生涯600以上の紙芝居や絵本を残しました。工学博士でもある加古さんは、子どもたちに科学に興味をもってもらうにはどうしたらよいかを考え、未来に残せる本づくりに目指しました。子どもの読み物だからと手を抜くことなく、専門家の意見を聞いたといっています。

この本に出会ったのは、歯医者さんでした。表紙と題名を見ただけでは何の本かわからず、5歳の息子が裏表紙の歯の本数を数えはじめて、歯の本だと気がつきました。酸が歯を溶かし



はははのはなし

加古里子／文・絵
(福音館書店)

虫歯になる事を、ていねいな絵で伝えているのが特徴です。

読み聞かせて子どもが興味を示すのは、歯の本数と歯の役割です。人間の歯は、肉食動物と草食動物の両方の特徴をもっていて、噛み切る切歯、引きちぎる犬歯、すりつぶす臼歯がそろっています。読み聞かせの後に、大昔の生き物の歯の化石から何を食べていたかわかると話しました。すると興味をもった子どもたちが、図鑑で肉食恐竜と草食恐竜の歯を比べ調べようとなりました。

人間の子どもは20本、成人の歯は28〜32本です。現代では、親知らずが生えてこない人が増えているそうです。これも、食と関係する進化なのでしょう。人間の歯は、一生のうち一度しか生え変わりません。かけがえない大切な歯。歯の衛生週間に読むのもおすすめです。